

観戦記

大会当日は晴天だった。
長野県は寒いだろうと思っていたが、とても暖かい日となった。
それでも日陰にいと、やはり寒さは晩秋のものだった。

団体戦

男子有段者の部は2回戦終了時点で4本差の中に5県がひしめく接戦だった。
その時点では石川県も2位タイで、1位の福井県を1本差で追いかけていた。
しかし、最終3回戦で12射皆中が2チーム、11中が1チーム。
石川県は7中で4位に終わった。
女子有段者の部は2回戦終了時点で、福井県を1本差で追う2位だった。
3回戦で福井県とは差が開き、3位のチームの追い上げを振り切り、2位入賞。
称号受有者の部は1回戦こそ9中で2位タイ発進となったが、2回戦11中、3回戦12中。
実力をいかに発揮し、最後に逆転して優勝を勝ち取った。
総合成績は石川県と長野県は順位も同じ内容の同点となった。
その場合、全員(108射)の総的中での勝負となり、残念ながら長野県に1本差で敗れた。
108射で1本差！1本の大切さを痛感させられた大会となった。
それでも選手の方々は全力で頑張って、1本1本勝負していたと思う。
お疲れ様でした。

個人戦

称号受有者の部は、2立目終了時点で江田選手、月輪選手そして3連覇中の平澤選手が8本詰めていた。
月輪選手は9中、平澤選手は11中で終わった中、江田選手は12本詰め切り、優勝を勝ち取った。
友安選手も11中で3人での2、3位決定の遠近競射に臨んだが、残念ながら涙を飲む結果となった。
女子有段者の部は、山口選手が3位入賞と健闘した。